

『国際政治』224号 特集企画

特集タイトル：西欧とロシアの「狭間」^{はざま}としての中東欧（仮）

編集責任者：福田 宏

本特集号の目的は、中東欧をめぐる国際政治を分析することである。それと同時に、中東欧という地域概念そのものがはらむ問題についても検討する。一般的に、中東欧は西欧とロシアの間に位置する地域を指す言葉として用いられているが、その地理的範囲は必ずしも明確でない。例えばウクライナは、ロシアからの攻撃を受けることでヨーロッパ側に位置づけられ、より明確に中東欧に含まれる地域になったと言える。本特集号では、こうした地域概念の揺らぎも含め、「狭間」をめぐる国際政治に関して幅広く論考を募集する。

『国際政治』において中東欧や冷戦時代の東欧それ自体が特集のテーマとして取り上げられるのは初めてである。体制転換直後の「共産圏の崩壊と社会主義」（99号、1992年3月）やEUの東方拡大を受けて組まれた「新しいヨーロッパ——拡大EUの諸相」（142号、2005年8月）といった特集は見られるものの、この地域そのものに焦点が当てられたわけではない。この点は、中東欧という地域が国際政治の客体と見られがちであったことを示しているのかもしれない。

確かに、現在進行中のロシア・ウクライナ戦争にしても、そもそもの発端となったのはNATO拡大をめぐる西側とソ連（ロシア）の行き違いである。ベルリンの壁が崩壊した直後のヨーロッパでは、多様な可能性が存在したはずだが、鍵となるプレイヤーの思惑が交差するなかで選択肢は狭められていった。中東欧諸国も最終的にNATO加盟を望むようになったとはいえ、これらの国々が鍵を握っていたわけではなく、その意思が決定的な意味を持ったわけでもない。

この地域が国際政治の世界で大きくクローズアップされたのは、20世紀に入ってからである。第一次世界大戦中には、ドイツのナウマンが中欧（ミッテルオイローパ）の概念を掲げ、ドイツ主導の大規模な地域再編の必要性を訴えたのに対し、地政学の祖とも目されるイギリスのマッキンダーは、大陸におけるロシアとドイツの「ランドパワー」としての台頭を恐れ、「緩衝地帯」としての東欧の重要性を説いた。これに対し、ハプスブルク帝国など諸帝国の崩壊後に誕生した独立諸国は、大国の狭間に位置することの難しさを強く意識しつつ、自国の生き残りを図り、場合によっては、多様な呼称で呼ばれた当地域の主体性を確保しようとした。だが、ナチスの台頭や第二次世界大戦後の冷戦は、それを許さなかった。

そもそも中東欧と一口に言っても、その内実は多様である。大きく分ければ、中東欧はバルト諸国やヴィシェグラード諸国、（それ自体の地理的定義が明確ではない）南東欧諸国から構成される。全体で15カ国以上を含み、その内EU加盟国は10カ国である。体制転換からすでに35年以上が経過し、かつての東側ブロックという位置づけだけでは、この地域を捉えることはもはや難しい。例えば、新自由主義による格差の拡大、ポピュリズムの台頭や民主主義の後退といった問題は、東西ヨーロッパの双方で見られる現象である。

とはいえ、良くも悪しくもロシア・ウクライナ戦争が改めて浮き彫りにしたように、西欧とロシアの狭間という問題は依然として存在する。だが、ウクライナの分析に関して近年指摘されているように、それは親口か親 EU かといった二項対立の視点だけで説明できるものではない。それは中東欧と呼ばれる地域全体についても同様である。この特集では、国際関係論だけでなく、比較政治学、地域研究、歴史学、社会学、経済学、文化人類学など多様なアプローチによる論考を歓迎する。

投稿を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600-800 字程度にまとめ、自宅、もしくは勤務先の住所・電話・メールアドレスを明記して、2026 年 4 月 30 日までに、下記の編集責任者にメールでお送りください。テーマとの関連や本特集号の構成などを総合的に勘案し、執筆をお願いする方には 2026 年 5 月 31 日までにご連絡を差し上げます。原稿の締め切りは 2027 年 3 月 31 日、論文の長さは執筆要領に定める計算方法で 2 万字以内です。原稿は複数名の査読者による査読の対象となり、最終的な掲載の可否は査読後に決定します。本特集号の刊行予定は 2027 年 11 月です。

執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご参照ください。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

テーマに関するお問い合わせやお申し込みは、編集責任者へお願いいたします。

《編集責任者連絡先》

〒157-8511

東京都世田谷区成城 6-1-20

成城大学法学部

福田 宏

e-mail: hifukuda★seiyo.ac.jp (★を@に置き換えてください)